



便り

猫の手も借りたい

田に水がきて数日したら、見晴るかす彼方まで青田になっている。かつては家族近隣集まって猫の手も借りたい忙しさであった。梅雨明けの稲田に人の影はなく、秋はコンバインの音で刈り取られた米は袋に詰められ運ばれていく。JAに収められ、自家用米はチケットで精米された米を渡される。効率で便利であるが田植え稲刈りを知る者には一抹の寂寥がある。(名華女)

コロナの予防接種が進められている。役所の職員は大変だ。接種会場で認知の高齢者に対応するのは想定を超えるトラブルが起きているだろう。猫の手も借りたい心境だと思う。お疲れ様です！(すみちゃん)

生まれ故郷は鰻の養殖が盛んな所で夏はあちこちですくい作業が始まる。作業始めにはすくい網を持つ手がたくさん必要なため、父はもちろん小学生の私も借り出された。自分では結構役に立ってたと思ってたけど、私は猫の扱いだったんだ。改めて笑えた。(しばP)

双子の子育て中ネコの手も借りたい状況だった。しかし「男は仕事」がまたうつつ



No.64



△ハモーン博士のまとめ

「猫の手も借りたい」ということわざは、「ネズミを捕るしか人間の役に立たない猫の手も借りたいほど忙しい」という意味からきているそうじゃ。今はペットとして癒しを求められる猫にしたなら、ネズミを捕るしか役に立たないなんて言われるのは、不名誉なことじゃな。なんにせよ忙しいときも、癒されたいときも、猫に負けんようワシらも頑張らねばな。



問合せ
大口町NPO登録団体ハモーン
☎95-1691

一旦忙しくなってくると立て続けに仕事が増え込んでくる。「働き方改革」とやらはどこに行ってしまったのか？時と場合、職種によって、忙しいときは忙しいんだから、「休めるときには休みましょう」くらいでちょうどいいのでは？とにかく今は、誰でもいい、猫でもいいから手を貸してください。(俺)

らと残っていた時代。ネコごころか夫の手もなかなか借りられなかった。あれから20数年、男性の育児参加が当たり前になった今、じいじは孫の世話にはネコ以上に活躍するはず。(チャーミー)



vol.326

町内にお住まいの
20代の皆さんがリレーで登場！

救急看護師として

山中 穂乃佳さん(余野) H9・8月生



やりがいのある仕事

看護師になり4年目。救命救急センターで3年勤め、この春に病院を移り、新たな環境でICUと救急外来を担当しています。

親族に医療関係者が多いため、自然の流れで医療の道へと進路も決まり、大府市にある看護科のある高校へ進学。卒業後の専攻科も含め、大府まで5年間通いました。実習での課題の多さに苦労したのも懐かしい思い出です。

卒業後は、若く体力のあるうちに経験を積みたくて、救命救急を希望。現場で初めて経験する事が多く、人工呼吸器など人の命に関わる装置を触る時はものすごく緊張しました。当時は、毎日残って勉強の日々でした。現在は重症患者さんを複数担当したり、先輩の指導もあったりと、新

しいことへの学びは続いています。また、動揺されているご家族への対応も大切な仕事のひとつです。

去年はコロナ病棟に配属。大変さもありましたが、新しい感染症について最も身近で学べた経験になりました。

家族について
父は穏やかな人。初めての一人暮らしでは、買出しなどいろいろと助けてもらいました。助産師だった母は、季節の行事には、いつも凝って見栄えのいい料理を作ってくれていました。同じ看護師の妹と、大学生の弟の3人兄弟。
冬には結婚を控えていて、新しい家族ができます。婚約者は、手際のいい人で、私より家事が得意かも。ふたりでゆっくりと歩んでいけたらと思っています。



▲趣味のフラワーアレンジメント。休日はのんびり過ごす事が好き。